米国　製造業部門の回復ペースは緩やかに鈍化も堅調さ維持
（10年7月ＩＳＭ製造業景気指数）

発表日：2010年8月2日（月）

～世界的に製造業部門は拡大ペースを鈍化しているものの堅調維持～

第一生命経済研究所　経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治
03-5221-5001

ＩＳＭ製造業景気指数は55.5と前月比▲0.7%低下したが市場予想を上回り水準も高い

７月のＩＳＭ製造業景気指数は55.5と前月比▲0.7%低下したが、市場予想の54.5を上回った。在庫（前月比＋0.9%ポイント）、入荷遅延（同＋0.2%ポイント）、雇用（同＋0.2%ポイント）が押し上げ寄与となった一方、新規受注（同▲1.0%ポイント）、生産（同▲0.9%ポイント）が押し下げ寄与となり、総合指数は前月比▲0.7%ポイント低下した。さらに、拡大した業種数が10業種（前月13業種）と減少している。ただし、拡大縮小の分岐点である50を12ヵ月連続で上回っているうえ、依然高い水準を保っており、製造業部門は堅調さを維持している。各国の景気刺激策による需要拡大、在庫調整の進展によって、製造業部門の回復傾向は持続している。

予想を上回った同統計の発表直後の市場では、株価、10年債利回りは上昇した。為替市場では、ドルは対円で一時的に強含んだ。

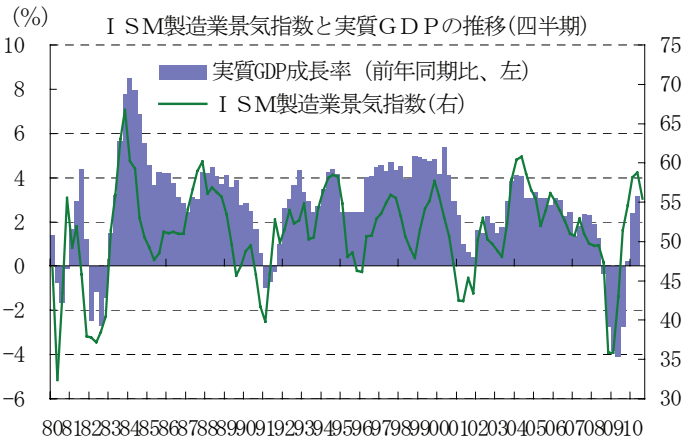
ＩＳＭ（the Institute for Supply Management）の推移

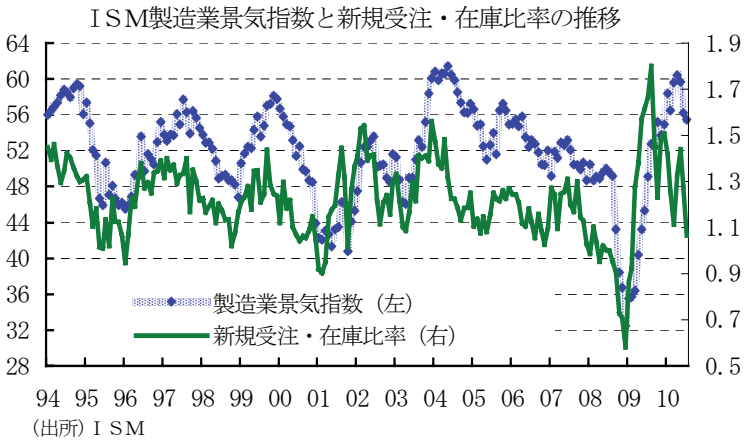
	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
09/10	55.2	58.3	62.2	51.8	47.3	56.3	53.5	65.0	55.5	51.0
09/11	53.7	61.5	60.2	49.6	41.4	55.7	52.0	55.0	56.0	51.5
09/12	54.9	64.8	59.7	50.2	43.0	56.8	50.0	61.5	54.5	55.0
10/01	58.4	65.9	66.2	53.3	46.5	60.1	56.0	70.0	58.5	56.5
10/02	56.5	59.5	58.4	56.1	47.3	61.1	61.0	67.0	56.5	56.0
10/03	59.6	61.5	61.1	55.1	55.3	64.9	58.0	75.0	61.5	57.0
10/04	60.4	65.7	66.9	58.5	49.4	61.3	57.5	78.0	61.0	58.0
10/05	59.7	65.7	66.6	59.8	45.6	61.0	59.5	77.5	62.0	56.5
10/06	56.2	58.5	61.4	57.8	45.8	57.3	57.0	57.0	56.0	56.5
10/07	55.5	53.5	57.0	58.6	50.2	58.3	54.5	57.5	56.5	52.5

ＩＳＭ製造業景気指数は年後半緩やかな低下傾向を辿る可能性

今後に関しては、景気対策による最終需要の持ち直しや、ハイテク需要の拡大傾向、在庫復元の動き等による生産活動の活発化を背景に、2010年のＩＳＭ製造業景気指数は製造業の拡大を示す水準で推移すると見込まれる。ただし、トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が09年８月をピークに低下基調にあることから、ＩＳＭ製造業景気指数は年後半緩やかな低下傾向を辿ると予想される。

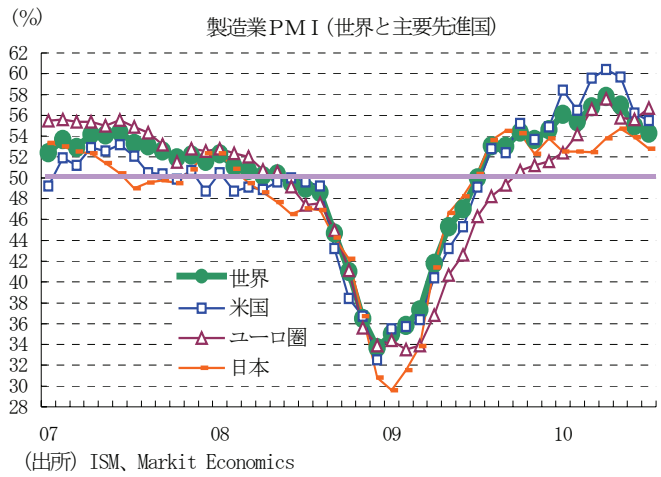
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

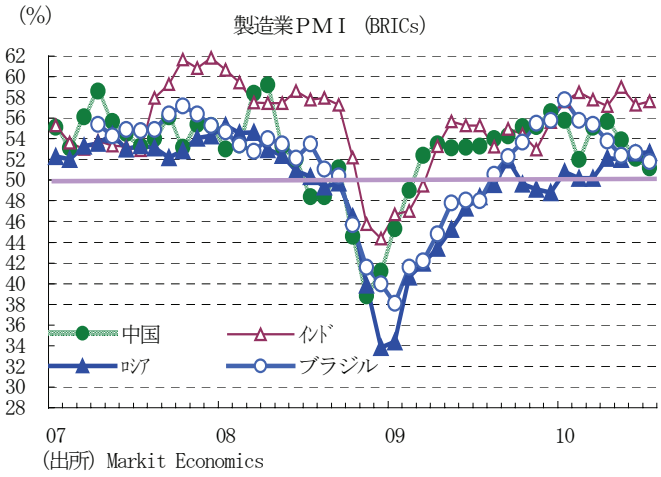




世界製造業景気指数は高水準を維持しており世界的に製造業部門が景気回復を牽引

輸出受注ＤＩが７月に56.5と拡大縮小の分岐点である50を上回っているうえ、前月比0.5%ポイント上昇したことから、新興国、日本、ユーロ圏など世界経済の拡大持続を示唆している。実際、７月の各国の製造業景気指数をみると、ユーロ圏では前月から上昇、10ヵ月連続で50を上回り水準も高い。日本では小幅低下も製造業部門の緩やかな拡大を示唆している。新興国では、インドが前月から上昇したうえ高い水準を維持した。ロシアも前月比では上昇した。一方、ブラジル、中国は50を上回っているが、これまでの高い水準からは低下しており勢いを弱めている。これら各国の数値を合成した世界製造業景気指数が、７月に54.3（前月55.0）と前月から小幅低下にとどまり、高い水準を維持している。このことから、製造業部門は世界的に拡大ペースが鈍化しているものの堅調さを維持していると判断される。

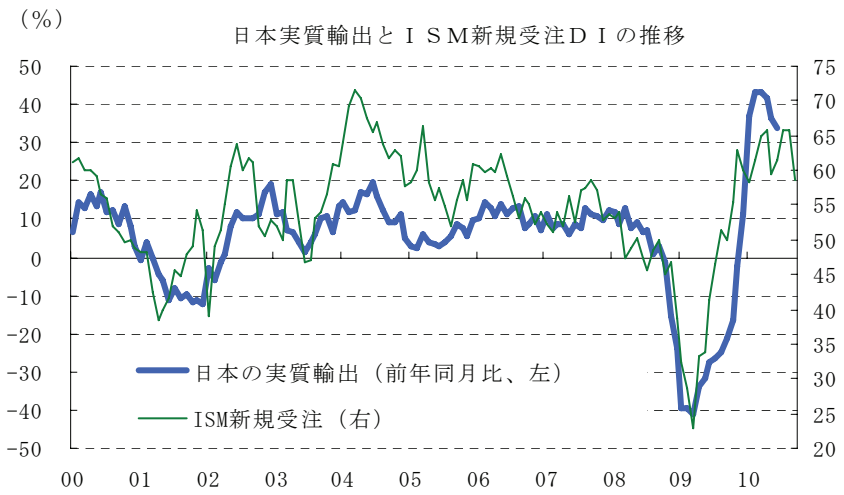




各国の米国向け輸出の拡大ペースは年後半に鈍化すると予想される

全体の動きに遅れて動く傾向がある輸入ＤＩが52.5と拡大をしているが前月比4.0%ポイント低下したこと、日本の輸出・生産に先行する傾向がある新規受注ＤＩが53.5と拡大を示しているが前月比▲5.0%ポイント低下したことから、日本を含む先進各国や、ＢＲＩＣｓなど新興国の米国向け輸出の拡大ペースは、年後半に鈍化すると予想される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

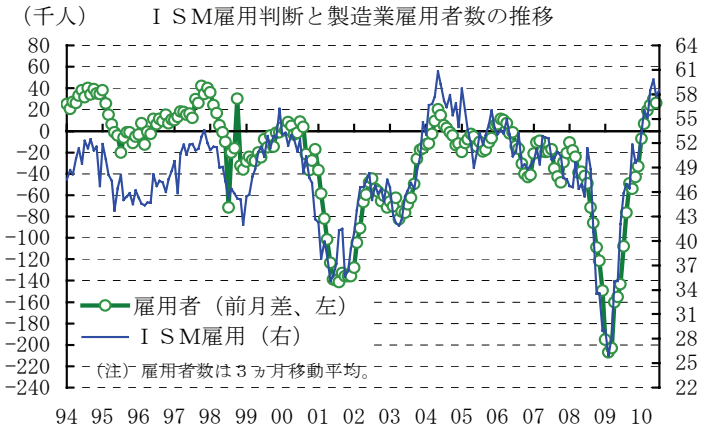


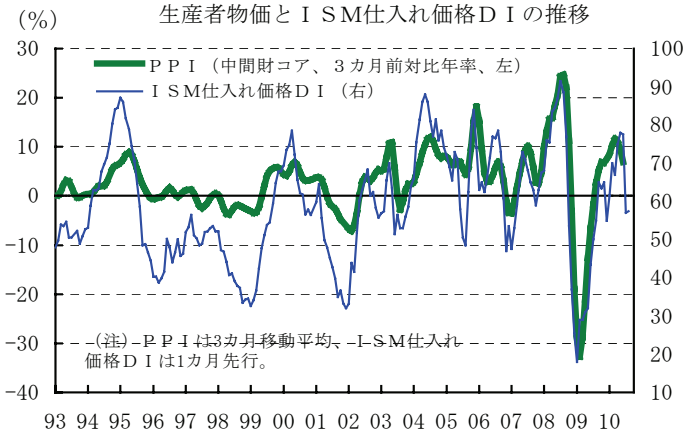
雇用ＤＩは58.6と７月の製造業雇用の増加幅拡大を示唆

雇用ＤＩが58.6と前月比0.8%ポイント上昇したため、７月の製造業雇用者数は増加幅を小幅拡大すると予想される。価格競争の激化する中でコスト削減圧力は強く、今後も製造業部門での雇用の増加ペースは緩やかなものになると見込まれる。

仕入価格ＤＩは57.5と川中でのインフレ圧力は弱まったまま

仕入価格ＤＩは、57.5と前月比0.5%ポイントの小幅上昇にとどまった。二番底懸念などを受けた商品価格の下落によって川中でのインフレ圧力が弱まっており、今後企業収益を下支えする要因となろう。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。